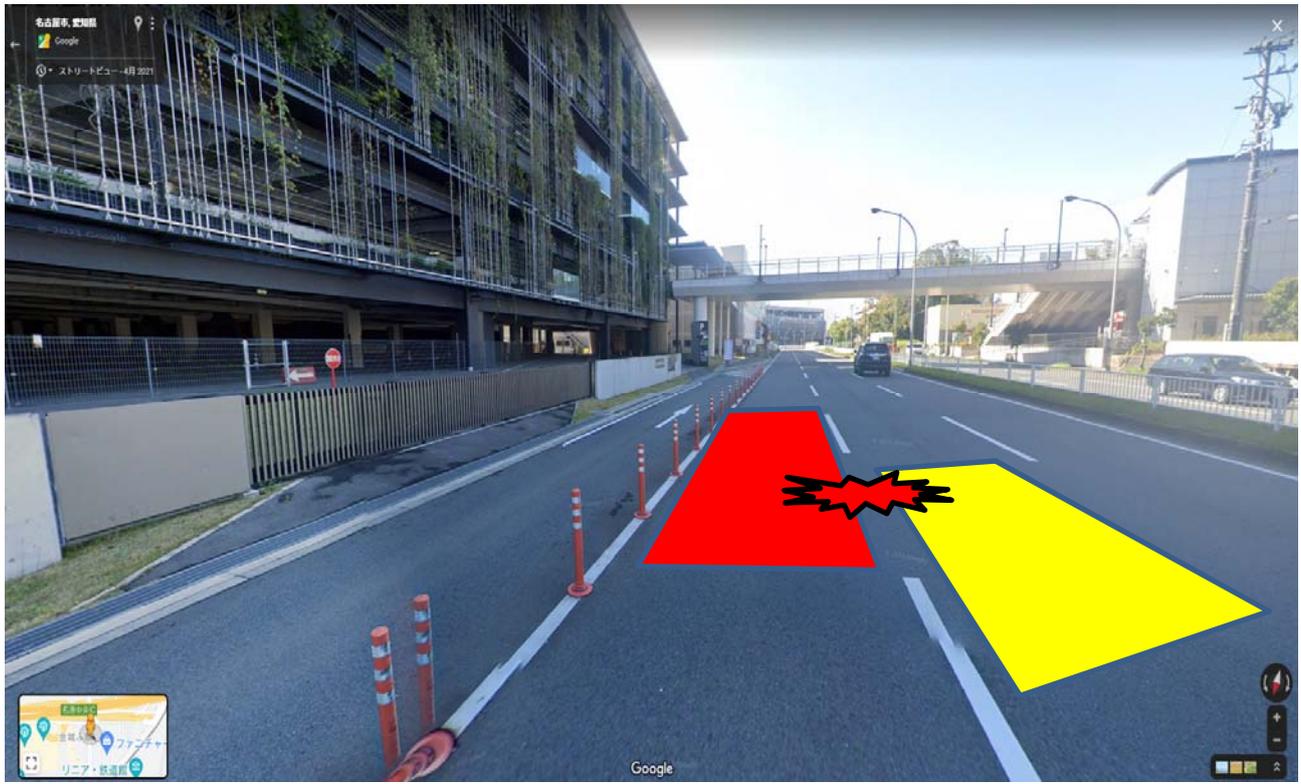


位置図

左折後、第2レーンを走行

衝突事故発生箇所



被害状況



◆原因

- ①第2レーンを走行していたため、運転手の目線から死角になっていた。
- ②助手が車線変更時の確認を怠った。
- ③ペースカーのウインカーのタイミングが遅かった。

◇対策

- ①車線変更、左折時は運転手が助手に声掛けを行い返答を確認してから行動する。走行に障害が無ければ、第1レーンの走行を基本とする。
- ②車線変更、左折時は助手も必ず巻き込み確認を行う。
- ③ウインカーを早めに点灯させ周囲に知らせる。(交差点は30m手前、車線変更は3秒前)急ハンドルで操作をしない。

令和3年11月16日

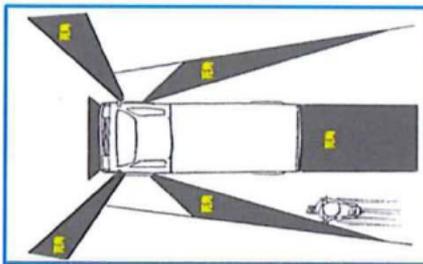
指示確認書

大型車両や特殊車両の死角を把握せよ！ 助手は運転しているつもりで乗車する！

自動車を運転していれば事故は起こるものです。しかし、道路関係車両が一般車両（お客さん）を巻き込んだ事故を起こすと非常に大きな問題になってしまいます。なぜなら我々は、発注者の一員として「安全・安心・快適」を提供する側のプロ集団でなければならないからです。荷が重いかもしれませんが、自覚と責任をもって安全作業をお願いします。

- ・トラック等の大型車両には死角がいっぱい

死角とは、ある角度からはどうしても見えない範囲をいい、車両が大きくなればなるほど死角範囲は大きくなる。



- ・助手は、運転しているつもりで乗車する

大型トラックでの巻き込み事故は、重大事故に繋がる可能性が高いです。助手は、ただ乗っているだけではなく、自分も運転しているという意識で乗車する。

- ①左折・左への車線変更・合流など車両が左に動くときは、助手は目視にて安全確認をして、運転手のサポートをする。**声を出して「左良し！」**
- ②助手が安全確認をしていない場合は、運転手は必ず安全確認指示する。

